

和光市協働事業実績報告書【平成25年度実施事業】

●事業概要

事業名	和光市ホームスタート事業
-----	--------------

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO法人わこう子育てネットワーク	こども福祉課

事業費	予算額	決算額
	1,000,000 円	1,007,857 円

事業内容 (実績)	<p>(1) ホームビジター養成講座8日間 1日目 9月19日(木)、2日目 9月26日(木)、3日目 10月3日(木) 4日目10月9日(水)、5日目 10月17日(木) 6日目、10月23日(水) 7日目10月30日(水)、8日目 11月7日(木) ビジター講座修了、新規登録者数 15名</p> <p>(2) トラスティ会議 第1回 10月22日(火) 第2回 3月26日(水) 事業進捗状況、活動報告、活動への助言</p> <p>(3) 家庭訪問支援 利用家庭数 24件 訪問件数 153件 のべ訪問人数 180人</p> <p>(4) ビジターフォローアップ講座 1回目 4月23日(火) 2回目 7月11日(木) 3回目 10月30日(木) 4回目 11月30日(土) 5回目 2月26日(水) 6回目 2月7日(金)【情報交流会】</p> <p>(5) 活動報告会 10月31日(木) 30名参加</p> <p>(6) オルガナイザースキルアップ研修 10月26日(土) 10月27日(日)</p> <p>(7) その他 ●スーパービジョン 随時 スーパービジョンミーティング 2/26午後開催 竹部友子さん(臨床心理士)OG</p> <p>●周知活動 ・民生児童委員児童部会へのホームスタート説明会 6/21 ・1歳6カ月児検診 保健センター (初回 OG2名、以降OG1名で担当) 4/25, 5/23, 6/27, 7/25, 8/22, 9/26, 10/24, 11/28, 12/19, 1/30, 2/27, 3/13 ・コープみらい主催での説明会 3/12</p>
--------------	---

●事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	<p>(1) ホームビジター養成講座 8日間 (14コマと面談)</p>	<p>(1) ホームビジター養成講座 8日間</p> <p>1日目 9月19日(木) 市役所602会議室 V15名 OG3名 ① オリエンテーション ② ホームスタートの内容・意義 (オーガナイザー)</p> <p>2日目 9月26日(木) サンアゼリア会議室 ① 家庭とは何か (福島富士子先生 保健医療科学院) ② 家庭で活動する上でのポイント (田中輝子さん HSJ理事)</p> <p>3日目 10月3日(木) 市役所603会議室 傾聴の意義と方法 (臨床心理士 竹部友子先生)</p> <p>4日目 10月9日(水) サンアゼリア会議室 ① 問題や悩みのある家庭への理解 (市村彰英先生 埼玉県立大学) ② 子どもの理解(上垣内伸子先生 十文字学園女子大学)</p> <p>5日目 10月17日(木) サンアゼリア会議室 ① 子育て支援の制度、資源を知り 地域で協働する関係者たちとの 連携とその仕事の実際を学 ぶ (中田典子さん 和光市保健センター 奥富さん 和光市子ども福祉課) ② ホームビジターの実務 (オーガナイザー)</p> <p>6日目 10月23日(水) 中央公民館 家庭の中で活動する ～傾聴と協働の実際演習～ (オーガナイザー)</p> <p>7日目 10月30日(水) サンアゼリア会議室 修了テスト、修了式、登録、交流会 (オーガナイザー)</p> <p>8日目 11月7日(木) 午前・白子コミセン 午後・中央公民館 個別面談</p> <p>ビジター講座修了、新規登録者数 15名</p> <p>注・申込は17名、うち一人は時間が合わ ず辞退、もう一人は自分の勉強のためとい うことでビジターになるおつもりがなかっ たので辞退</p>

	<p>(2) トラスティ会議 (年2回)</p> <p>(3) 家庭訪問支援 (15件以上)</p> <p>(4) ビジターフォローアップ講座 (年4回)</p>	<p>(2) トラスティ会議 第1回 10月22日(火) 18:00～ もくれんハウス 8名</p> <p>第2回 3月26日(水) 14:00～ 中央公民館 7名 事業進捗状況、活動報告、活動への助言</p> <p>(3) 家庭訪問支援 利用家庭数 24件 期間中終了家庭 14家庭 途中終了家庭 4家庭 支援継続中家庭 10家庭 訪問件数 153件 のべ訪問人数 180人</p> <p>(4) ビジターフォローアップ講座 1回目 4月23日(火) 白子コミュニティセンター V5名 OG3名 ホームスタートわここの現状報告、 詩『今日』子育て中のおかあさんへ紹介、 ビジターの近況報告、本年度の予定、 最近の訪問について(支援センターでの対応等)</p> <p>2回目 7月11日(木) 保健センター V3名 OG3名 講演「専門職が連携して、児童虐待を予防し、早期発見をするために」 講師:松岡太郎先生 (小児科医師 豊中市健康福祉部保健所 参事 兼 保健予防課長)</p> <p>3回目 10月30日(木) ササセリア会議室 V2名 OG3名 第4期ビジター養成講座7日目、修了式、 交流会での情報交換</p> <p>4回目 11月30日(土) 東京未来大学 V8名 OG2名参加 午前 講演「HSビジターによる無償支援の強みとは」 講師:野田敦史先生 (東京未来大学 子ども心理学部教授) 午後 関東エリアビジター交流</p> <p>5回目 2月26日(水) 市役所401会議室 V14名 OG8名 上級傾聴演習 竹部友子先生(臨床心理士)</p>
--	---	--

	<p>(5) 活動報告会 (年1回)</p> <p>(6) オーガナイザー スキルアップ研修参加 (年1回)</p> <p>(7) その他</p>	<p>6回目(情報交流会)2月7日(金) もくれんハウス V18名 子ども6名 OG3名 近況報告、1期～4期ビジター同士の交流</p> <p>(5) 活動報告会(シンポジウム形式) 10月31日(木) サンアゼリア会議室 30名参加 ・「子育て家庭のサポートにおける協働」中田 典子さん(保健師) ・「体験発表」利用者2名 ビジター1名 ・「当事者が当事者を支える意味とは」 林浩康先生</p> <p>(6) オルガナイザー・スキルアップ研修 10月26日(土) 大正大学 講座① 西郷泰之先生:OG3名 10月27日(日) 大正大学 講座② 都留和光先生:OG2名 関東エリア会議</p> <p>(7) その他</p> <p>●スーパービジョン 随時 困難なケースが発生したときに随時相談、 スーパービジョンミーティング 2/26午後開催 竹部友子さん(臨床心理士)</p> <p>●周知活動 ・民生児童委員児童部会へのホームスタート 説明会 6/21 市役所</p> <p>・1歳6カ月児検診での周知活動 保健センター (初回 OG2名、以降OG1名で担当) 4/25, 5/23, 6/27, 7/25, 8/22, 9/26, 10/24, 11/28, 12/19, 1/30, 2/27, 3/13</p> <p>・コープみらい主催での説明会 3/12 中央公民館 24名</p>
事業変更理由	予定以上の事業をこなした。	

【ヒアリングより】

- ・ (3)家庭訪問支援のうち、途中終了家庭 4 家庭については、引越し・行政に引継ぎ・里帰り等で一時連絡がつかなくなりそのまま支援終了といったケースがある。
- ・ 事業規模が拡大したが、そのコストについては、オーガナイザーのボランティア的な活動や、保健センター・ジャパン等の事業に相乗りし、負担なく事業を行えたことで吸収している。

●事業成果指標

		当初	実績
団 体	事業成果 指標	利用家庭数 15 件 ニーズ達成度 90% ホームビジター養成数 10 名 延べ登録数 25 名	利用家庭数 24 件 ニーズ達成度 100% ホームビジター養成数 15 名 延べ登録数 33 名
	コメント	今年度は、協働提案事業として、和光市の事業となったことで、信頼度が上がったと同時に広報周知手段が拡大した。その結果、利用者への周知、ビジター養成講座の参加者の募集で成果が出た。	
担 当 課	事業成果 指標	乳幼児のいる家庭を訪問するホームビジターの募集・養成を行い、15 家庭以上の訪問を行う。	15 名のホームビジターの登録を行い、乳幼児のいる 24 家庭の訪問を行うことができた。
	コメント	当初の訪問予定数を超える利用実績を残すことができた。 ホームビジターの養成については、ホームビジター養成講座を開催するとともに、ビジターフォローアップ講座を開催することでスキルアップを図ることができた。	

【ヒアリングより】

- ・ 成果指標の「ニーズ達成度」については、ホームスタートの自己評価ツールを用いて提示。
- ・ 和光市の特徴として、0歳児(9ヶ月まで)の利用が多く、18家庭/24 家庭となっている。

事業を実施し、想定以上の効果があったか。	団 体	<ul style="list-style-type: none"> ・ はい ・ 保健センター事業（健診、赤ちゃん全戸訪問）や養育支援訪問事業との連携が深まった。 ・ 当初の支援予定数 15 家庭（前年支援数 19 家庭）を上回り 24 家庭への支援が実現した。多胎育児家庭、年子、外国籍の家庭、転居してきた家庭などが今年度の利用者としては目立ったところだった。なかには通告対応の困難ケースもあり、行政との連携を図りながら支援につなげることができた。 ・ 周知と信頼度が上がった結果、ビジター養成講座の受講者も 15 名と満員での開催となり、予定の 10 名を上回る 15 名のビジターさんが新たに登録された。これでHSわこうの登録ビジター数は 33 名となる。 ・ 研修等のビジターさんのフォローアップを重ねる中で、翌年度学童期思春期の親向けサロンを運営するチームが発足するという波及効果もあった。また情報提供の結果、市のヘルプサポーター事業への参加者も多くいた。地域活動の担い手としてモチベーションの高い人材が育っ
----------------------	--------	---

事業を実施し、想定以上の効果があったか。	団 体	<p>てきているのを感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジター養成講座を通じて、埼玉県立大学の市村彰英教授、十文字大学の上垣内伸子教授の理解と協力を得られ、たいへん充実した講座を開催することができた。今後の知恵を拝借できる大変ありがたいプレーンとなってくださることになった。 <p>【他、市外その他機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コープみらいが自ら主催して普及研修を開催していただき協力した。 ・埼玉ホームスタート推進協議会のホームスタート普及周知活動の世話役を今年度も引き続き務めた。その結果、埼玉県が主催する子育て支援拠点向けの専門研修「支援が届きにくい子育て家庭への支援のあり方」について講師を依頼され勤めた。 ・県内普及活動では、狭山市で新たに取組まれる成果が生まれた。越谷市、加須市、吉川市、戸田市、などと官民間わなにかかわりを継続的に持つことで、県域での信頼度も上がった。
	担 当 課	<ul style="list-style-type: none"> ・はい ・協働事業にしたことで、広報の強化、保健センターの事業での周知や育児支援家庭訪問事業等との連携を図り、また活動報告会や説明会を実施し、活動を活発にしたことで、利用実績が向上した。また、多胎児・年子・外国籍・市外から転居など多様な乳幼児のいる家庭の支援を行うことができ、多様な子育て世帯の支援を行った。行政とNPOが連携しながら事業を拡大することが可能となった。

【ヒアリングより】

- ・ ビジターのモチベーションが高く、自主的に活動をスタート(ウェルカムカフェ)・自助グループ設立・ヘルスサポーターとして、地域で活動を始めている。
- ・ ビジターの高いモチベーションをどうケアしていくかが、今後の課題。

●協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

	団体	担当課
①事業進捗状況の報告を行っていましたか。	はい	はい
②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。	はい	はい

(2) 事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に下の左欄に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかを右の欄にご記入ください。

<p>団体</p>	<p>【具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳半健診での周知活動ができるようになった。ホームスタートだけでなく、外国人支援などの他の支援につなげることもできた。 ・制度になったことでこれまでつなげられなかった民生児童委員向け研修が実現できた。 ・保健センターの赤ちゃん全戸訪問の担当者向けの研修と一緒に参加させてもらうことができた。 ・養育家庭訪問や保健師の訪問などと役割を分担しながら家庭の支援にあたることができた。 ・もくれんハウスの多胎育児家庭支援のつどいとの連携が進み、利用者からそのサポーターにまでなるママが現れた。 ・ビジターさんたちが新たにサロンを開設する準備を始めた。 	<p>【つながりや連携の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の子育て家庭の支援としても柔軟に当たれる資源として定着させるように関連サービスとの連携を深めたい。 ・社協や、民生児童委員、子育て支援センター等これまでNPO独自ではなかなか周知紹介協力までは関係を構築できなかったところと連携を深めていきたい。 ・学童期思春期の親向けサロンを開設し、ビジターさんの有志に支えられた新たな子育ての受け皿を地域に作っていく。
<p>担当課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を受け、登録されたホームビジターが、利用者の家に訪問し、活動することで、地域のボランティア（ホームビジター）と子育て家庭との繋がりが構築された。また、ひきこもりがちであった子育て家庭が、社会と繋がるきっかけにもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と子育て家庭との世代間交流が生まれ、地域のコミュニティの活性化につながる。

【ヒアリングより】

- ・ホームスタートにはならなかったが、深刻なケースがあり、行政側に引継ぎ対応するケースがあった。どうしていいかわからない困っている親が、支援にアクセスできる入り口として機能した。
 - ・多胎児家庭支援のつどいでは、人材の循環が生まれてきており、支援者になれる人材が出てきた。
 - ・民生児童委員等、民間のいちNPOが繋がるのが困難な対象と繋がりをもてるようになったのは、協働事業による公的な機会があったためと考えている。
 - ・新規でビジター登録した人の中には、意欲的に研修等に参加してもらっているが、まだビジターとしての受け皿がない人もいる。
- 学んだことを活かしたいという強い気持ちから、新年度には新規事業として「ウェルカムカフェ」を立ち上げる。ビジターの意欲と法人の持つノウハウを合せ、事業を進める予定。

(3) 市民満足度の向上

団体 担当課

事業の受益者の満足を得ることができましたか。 はい はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、下欄にご記入ください。

団 体	ツールで、利用者の自己評価を毎回記録保存している。 そのデータより							
	2014支援終了家庭のニーズの変化	当初のニーズ 自己評価	終了後自己評価				途中終了等 評価ナシ	改善率
			達成	一部達成	変化なし	達成及び 一部達成		
	孤立感の解消	8	3	4	0	7	1	87.5%
	子育てサービスの利用方法を知りたい	7	6	0	0	6	1	85.7%
	親自身の心の安定	7	3	4	0	7	0	100.0%
	自尊感情や自己肯定感	3	1	2	0	3	0	100.0%
	親の身体の健康	6	3	2	0	5	1	83.3%
	子どもの身体の健康	1	0	0	0	0	1	0.0%
	子どもの心の健康	3	2	0	0	2	1	66.7%
	子どもの問題行動の減少	4	2	1	0	3	1	75.0%
	子どもの成長・発達を促す機会を作る	6	5	1	0	6	0	100.0%
	家族間のイライラの減少	2	0	2	0	2	0	100.0%
	家事の上達	3	1	2	0	3	0	100.0%
	家計のやりくり	1	0	1	0	1	0	100.0%
他子の悩み軽減	1	1	0	0	1	0	100.0%	
その他	1	1	0	0	1	0	100.0%	
総計	53				47	6	88.7%	
担 当 課	活動報告会に参加し、利用者やホームビジターの体験談や感想を直接聴いた。							

団体 担当課

事業の受益者以外の市民全体の満足度の向上を感じられましたか。 はい はい

団 体	ホームスタートのような引きこもりがちな家庭への支援の必要性について、共感を得られた。
担 当 課	子育てに対するストレスや育児不安を解消・軽減し、孤立化を防ぐことは、児童虐待を防止することに繋がる。

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組めましたか。

団体 担当課

①「相互理解の原則」 はい はい

②「目的・評価共有の原則」 はい はい

③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

役割分担について

	当初	実績
団体	別紙役割分担表通り	当初の予定通り実践した。 行政の会場確保が大変事業をスムーズに進めた。
担当課	事業実施について、会議の開催にあたってはその種類によって、開催・協力の体制を分担し、ホームビジター事業や講座、研修、活動報告会などは団体が主となる。広報については、市・団体がそれぞれ周知可能な手段を用いて分担する。	役割分担書に沿った役割分担を行った。会議の開催や広報について、市・団体が綿密な連携を取ることで、それぞれ可能な限りの手段を用いて行うことができた。

役割分担の中で良かった点や改善点をご記入ください。

団体	担当課との調整に第三者の市民活動推進課が入ることでお互いの利害関係にとられず協働基本原則に従いミッションに準じた公平な話し合いができたと感じた。
担当課	家庭への直接的な支援は事業実施団体が行うことにより、行政の介入時のように構えることなく、気軽に利用者が利用できた。また、市の事業として周知することで、信頼感が増し、利用の増加に繋がった。

【ヒアリングより】

- ・ 利用者の立場を考慮し、どこまでの情報が行政に渡るのか等、利害関係に絡みそうな事案も、第三者がいることで対立せず、信頼感を持って事業が行えた。
- ・ 会場の確保等、団体にとって負担となる役割について、市民活動推進課の調整により担当課の協力が得られたことは、協働事業のメリットだと思う。
- ・ 市民活動推進課のフォローがここで終わってしまわないことを望む。
困ったときにコーディネーターに入ってもらえる仕組みがあるとうれしい。

協働事業の実施にあたり、どのようなメディアを活用して事業のPRをしましたか。その代表的事例を左欄に記入し、また、協働事業の実施により、事業の社会的認知度が向上したかどうかを、右の欄にその理由と併せてご記入ください。

団体	【PR事例】 広報わこうでの周知、ビジター養成講座、自団体ホームページ、フェイスブック、ツイッター、コープみらいの広報誌	【社会的認知度の向上】 ホームスタートが何かを知る人が増えた。 ホームスタートへの利用者、紹介件数が増えた。
----	---	--

情報公開について、どのような手段で情報発信をしましたか。

担当課	ホームページやチラシ配付による周知を行った。
-----	------------------------

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	<p>【団体のメリット】 事業の資金安定確保、持続継続性の確保、信頼度のアップ</p>
	<p>【市のメリット】 制度の隙間にあった、引きこもりがちな子育て不安を抱えた家族への支援が実現した。これまでつながっていなかった深刻な家庭への支援が実現し、通告を通して支援が実現した。</p>
	<p>【市民のメリット】 出かけられずに支援を使えなかったりする支援のグレーゾーンに位置する家庭が子育て支援を使う援助を得られる機会が増えた。 子育てを社会で支える意識を持つビジターさん自身が地域のソーシャルキャピタルとして機能している。</p>
担当課	<p>【市のメリット】 地域のボランティアの人たちで構成されるホームビジターが、子育て世帯を訪問し支援することで、地域のコミュニティが活性化された。</p>

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは何ですか。

団体	周知、連携が子育て支援センターや保育園、家庭児童相談員とがまだ十分ではない。利用者向けの周知活動のさらなる必要性を感じる。
担当課	<p>虐待のリスクが懸念される世帯もあるので、ホームスタートの事業があることを市内の乳幼児のいる家庭に、保健センターでの健診時などの機会にさらに広く周知して行くことが必要になる。 また、ホームビジターの登録者も増加して、地域コミュニティへの積極的な参加を促進していきたい。 事業実施が初年度であったが、15件のビジターの登録と24件の支援家庭の登録と153件の訪問があり、市民が子育て世帯を見守っていく意識を高めながら協働に参画することができた。</p>

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいもの・今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているか等をご記入ください。

団 体	<p>【成果のアピールと事業の発展への貢献】</p> <p>この訪問型子育て支援ホームスタート事業に我々が取り組んだのには、子育て支援拠点を運営する当団体が現場で実感してきた、制度の隙間にある拠点に出てこない引きこもりがちな家庭こそ課題を抱えがちであるという問題意識がある。</p> <p>それを背景に当団体では自主事業として 2009 年からホームスタートに取り組んできた。活動の原資は 2009 年は県から、2010 年は福祉医療機構からの助成であった。</p> <p>その後、当団体が中心となって県内のホームスタート実施団体 3 団体（当団体及び越谷の NPO 法人と加須の社福法人）と埼玉県少子政策課、事業実施地域の行政担当部署、コープみらい、日本社会事業大学、ほか関連 NPO を含めた協議体を組織し、新しい公共支援事業の原資を得て 2011、2012 の活動を継続してきた。</p> <p>この新しい協議体「埼玉ホームスタート推進協議会」の趣旨は地域の住民の力で制度の隙間にある孤立した家庭を支援につなぎ、児童虐待や家庭崩壊などの深刻な課題の発生を予防することであり、活動の目的は、訪問型子育て支援ホームスタートのより良い実践を各地域で行い、それを客観的に評価し、その実績を以て県域にさらに普及していくことである。（その結果、埼玉県では上記の 3 団体に、吉川市、戸田市、狭山市の団体が加わり現在 6 地域でホームスタート活動が始まっている）</p> <p>その二年間にわたる官民協働の事業を通じて、和光市においても官民ともにこの事業の必要性を認識することができた。その共通認識に立って、今年度、ホームスタートの訪問支援の手法で協働提案事業の仕組みを使うことができたのは、地域の孤立している家庭に支援が届けられるというメリットのほかに、それ以外の市民にも内容を周知し、必要性をわかってもらうのに大変役立った。市と協働で行うことでの信頼感はより一層この事業の目的実現に寄与した。つまり想定した制度の隙間にいる対象者が訪問というハードルの高い支援にも関わらず、その信頼感を背景により多くが利用を試みたことからわかる。</p> <p>その結果、この事業は今年度以降継続的に制度の中に組み込まれ、平成 27 年度からの子ども子育て新制度の中に市町村独自事業として位置づけられる方向で現在和光市の子ども子育て会議が進んでいる。</p>
--------	--

協働事業を実施した率直なご感想をご記入ください（良かった点、苦勞した点、印象に残っていること、事務量的変化・協働に対する意識の変化等があったか等）。

担 当 課	<p>将来の虐待に繋がる危険を回避できる可能性のある事業を NPO の資源を活用して推進することができた。</p> <p>今後も市民の子育てへの経験や見識を活かしたホームビジターを養成し、弾力的に事業を展開することが期待される。</p> <p>行政のみで事業を実施することは、市民の子育てに対するハードルを上げてしまう側面があるので、NPO の活動によりソフトに事業を展開して行くことにメリットが感じられる。</p>
-------------	--